

【 復活讃詞 第5調 】



しんじゃよ、ちちとせいしんとともにはじめ
信者 父 聖 神 共 は 始
なきことばわがすくいのため
言 吾 救 爲 に
どうていぢよよりうまれしものをほめうとうて
童 貞 女 生 者 讃 歌
おがむべし、かれあまんじてそのみにて
拜 彼 甘 其 身
じゅうじかにのぼりしをしのびそのこ
十 字 架 上 死 忍 其 光
うえいのふくかつにてしせしものを
榮 復 活 死 者 を
復 活 せしめたまえばなり。

【 日本の亜使徒ニコライの讃詞 第4調 】



こうえいはちちとことせいしんにきす、いまも
光 榮 父 子 聖 神 歸 今
いつもよよに、アミン。
何時 世 世
しととひとしくどうぎなるものちゅう
使 徒 等 同 座 者 忠
じつにしてしんちなるハリストスのえきしゃ、せい
實 神 智 役 者 、 聖

なるしんにえらばれたるふえ、ハリストスのあい
 神 撰 笛 愛

にみちたるうつわ、わがくにのこう
 満 器 我 國 光

しよ お しゃ、あしとしゅきょうせいニコライ
 照 者 亜使徒主教 聖

よ、なんぢのぼくぐんのため、および
 爾 羊 群 爲 及

ぜんせかいのため、いのちをたもうせい
 全世界 爲 生 命 賜 聖

さんしゃにいのりたまえ。
 三者 祈 給

【 聖三の歌 】

代禱) ^{しゅ}主よ、^{けいけん}敬虔なる^{もの}者を^{すく}救い、^{およ}及び^{われら}我等に^き聆き^{たま}給え、

しゅよ、けいけんなるものをすくい、およびわれ
 主 敬 虔 者 救 及 我

らにききたまえ。
 等 聆 給

代禱) ^{よよ}世世に、

ア ミ ン。

せいなるかみ、せいなるゆうき、せいなる
 聖 神 聖 勇 毅 聖

じょう せい の も の よ、 わ れ ら を あ わ れ め
 常 生 者 我 等 憐

よ 。 せい なる か み、 せい なる ゆ う き 毅、 せい
 聖 神 聖 勇 毅 聖

なる じょう せい の も の よ、 わ れ ら を あ わ れ
 常 生 者 我 等 憐

め よ 。 せい なる か み、 せい なる ゆ う き、
 聖 神 聖 勇 毅

せい なる じょう せい の も の よ、 わ れ ら を あ わ
 聖 常 生 者 我 等 憐

れ め よ 。 こ う え い は ち ち と こ と せい しん
 光 榮 父 子 聖 神

に き す、 い ま も い つ も よ よ に、 ア ミ ン。
 歸 今 何 時 世 世

せい なる じょう せい の も の よ、 わ れ ら を あ わ
 聖 常 生 者 我 等 憐

れ め よ 。 せい なる か み、 せい なる ゆ う
 聖 神 聖 勇

き、 せい なる じょう せい の も の よ、 わ れ ら を
 毅 聖 常 生 者 我 等

あ わ れ め よ 。
 憐

【 提綱 (プロキメン) 主日第5調 】

代禱) ^{えいち} 睿智、

誦經) プロキメン、^{しゅ}主よ、^{なんぢ}爾は我等を^{たも}保ち、^{われら}我等を^{まも}護りて、^こ斯の^よ世より^{えいえん}永遠に^{いた}至らん、



しゅよ、なんぢはわれらをたもち、われらをまも
主 爾 我 等 保 我 等 護
りて、このよよりえいえんにい
斯 世 永 遠 至
たらん。

誦經) ^{しゅ}主よ、^{われ}我を^{すく}救い^{たま}給え、^{けだしぎじん}蓋義人は^た絶えたり、



しゅよ、なんぢはわれらをたもち、われらをまも
主 爾 我 等 保 我 等 護
りて、このよよりえいえんにい
斯 世 永 遠 至
たらん。

誦經) ^{しゅ}主よ、^{なんぢ}爾は我等を^{たも}保ち、^{われら}我等を^{まも}護りて、



このよよりえいえんにいたらん
斯 世 永 遠 至

【 使徒經 (アポストロス) 110 端 ロマ書 12 章 6 節～14 節 】

代禱) ^{えいち}睿智、

誦經) ^{せいしと}聖使徒パヴェルが^{じん}羅馬人に^{たつ}達する^{しょ}書の^{よみ}讀、

代禱) ^{つつし}謹みて^き聽くべし、

誦經) ^{けいてい}兄弟よ、^{われら}我等に^{あた}與えられし^{おんちよう}恩寵に^よ依りて、^{われら}我等^{たまもの}賜を^う獲ること^{ひと}齊しからざるが^{ゆえ}故に、

^{よげん}預言を得ば、^え信の^{しん}度に^よ依りて^{よげん}預言せよ。^{つとめ}役事を得ば、^え役事に^{つとめ}居れ、^お教うる^{おし}者あれば、^{もの}教えよ、

^{すすめ}勸慰を^な爲す^な者は^{ほどこ}勸慰を^{もの}爲せ、^{すなお}施す^{ほどこ}者は、^{おさ}朴直にして^{もの}施せ、^{おさ}理むる^{もの}者は^{こころ}心を^つ竭くして^{おさ}理

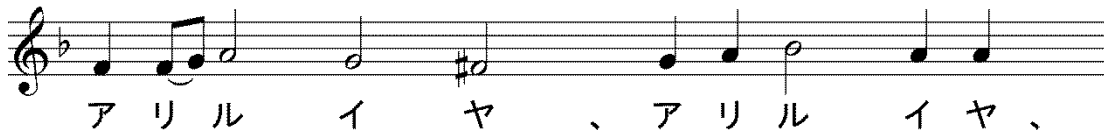
めよ、^{あわれみ} 矜恤を爲す者は、^{よろこ} 歡びて^{あわれ} 矜め。愛は^{あい} 偽^{いつわり} なかるべし、^{あく} 惡を^{にく} 惡み、^{ぜん} 善を^{したし} 親め、
^{けいてい} 兄弟の愛を以て相^{あい} 愛し、^{れいぎ} 禮儀を以て相^{もつ} 譲れ。勤に^{あいゆづ} 怠る勿れ、^{つとめ} 神を^{おこた} 熾せ、^{なか} 主に^{しん} 事^{もや} せ、^{しゅ} 主に^{つか} 事^{きょう} せよ。
^{のぞみ} 望を以て^{よろこ} 喜べ、^{かんなん} 患難に^あ 遇いて^{しの} 忍べ、^{きとう} 祈禱に^{つね} 恒なれ、^{せいと} 聖徒の^{もと} 需むる^{ところ} 所に^{きょう} 供^{きょう} せよ。
^{つと} よ、^{たびびと} 務めて^{むか} 遠人を^{なんぢら} 迎えよ。爾等を^{きんちく} 窘逐する者を^{もの} 祝福^{しゆくふく} せよ、^{しゆくふく} 祝福^{のろ} して、^{なか} 詛^{のろ} う勿れ。

(比較用 口語訳) 兄弟たちよ。わたしたちは与えられた恵みによって、それぞれ異なった賜物を持っているので、もし、それが預言であれば、信仰の程度に応じて預言をし、奉仕であれば奉仕をし、また教える者であれば教え、勧めをする者であれば勧め、寄附する者は惜しみなく寄附し、指導する者は熱心に指導し、慈善をする者は快く慈善をすべきである。愛には偽りがあってはならない。悪は憎み退け、善には親しみ結び、兄弟の愛をもって互にいつくしみ、進んで互に尊敬し合いなさい。熱心で、うむことなく、霊に燃え、主に仕え、望みをいだいて喜び、患難に耐え、常に祈りなさい。貧しい聖徒を助け、努めて旅人をもてなしなさい。あなたがたを迫害する者を祝福しなさい。祝福して、のろってはならない。

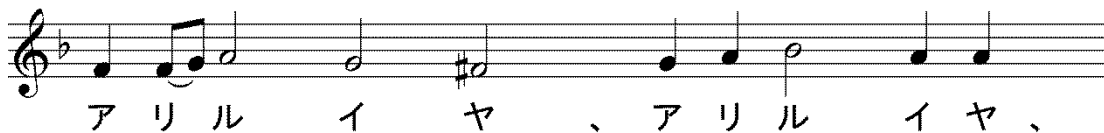
代禱) ^{えいち} 睿智、

誦經) アリルイヤ、

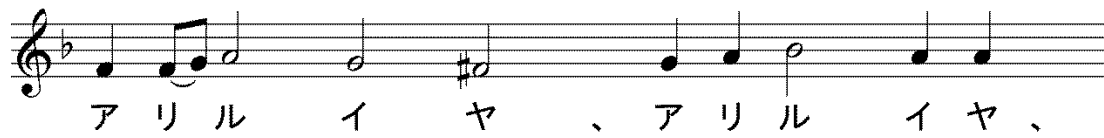
【 アリルイヤ 主日第5調 】



誦經) ^{しゅ} 主よ、^{われなが} 我永^{なんぢ} く^{じれん} 爾の慈憐^{うた} を^わ 歌^{くち} い、^{もつ} 我が^{よよ} 口を以て^{なんぢ} 世^{しんじつ} 世に^{つた} 爾の眞實^{つた} を傳えん、



誦經) ^{けだしわれい} 蓋^{じれん} 我^{なが} 言^た う、^{なんぢ} 慈^{なんぢ} 慈は永^{しんじつ} く^{てん} 建^{かた} て^{かた} られたり、^{かた} 爾^{かた} は^{かた} 爾^{かた} の眞實^{かた} を^{かた} 天^{かた} に固^{かた} めたり、



ア リ ル イ ヤ 、 ア リ ル イ ヤ 、



ア リ ル イ ヤ 。

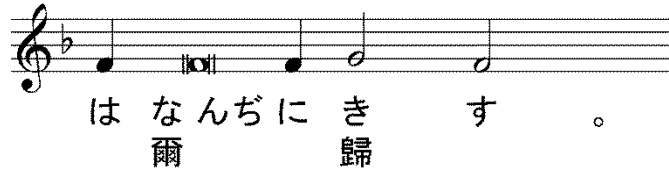
【 福音經 (エヴァンゲリオン) マトフェイ福音書 29 端 9 章 1~8 節 】

代禱) ^{えいち} 睿 智、

誦經) マトフェイ傳の^{でん}聖^{せい}福^{ふく}音^{いん}經^{けい}の^{よみ}讀、



しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい
主 光 榮 爾 歸 光 榮



はなんぢにきす。
爾 歸

代禱) ^{つつし} 謹 ^き みて聽くべし、

誦經) 彼の^か時^{とき}イイス^{ふね}舟^{のぼ}に登^{わた}り、濟^{おのれ}りて己^{むら}の邑^{きた}に來^みれり。視^{ちゅうぶう}よ、癱^{うれ}瘋^{とこ}を患^ふいて牀^ふに臥^せせ

る^{もの}者^{かれ}を彼^かに昇^かき來^{きた}れる者^{もの}あり、イイス^{かれら}彼^{しん}等^みの信^{ちゅうぶう}を見^{もの}て、癱^い瘋^この者^{こころ}に謂^{えり}、子^こよ、心^{こころ}

を安^{やす}んぜよ、爾^{なんぢ}の罪^{つみ}は爾^{なんぢ}に赦^{ゆる}さる。時^{とき}に或^{ある}がくし^らおのれ^{うち}の衷^いに謂^{かれ}えり、彼^{けが}は褻^{ことば}す言^{ことば}

を言^いう。イイス^{そのおもい}其^み意^いを見^{なんぢら}て曰^{なん}えり、爾^{こころ}等^{うち}何^あぞ心^{おも}の中^{けだ}に惡^しきこと^{なんぢ}を懷^う、蓋^{おも} 爾^{けだ}の

罪^{つみ}赦^{ゆる}さると言^いひ、或^{ある}は起^いきて行^いけと云^いは、孰^{いづれ}か易^{やす}き、然^{しか}れども爾^{なんぢら}等^{ひと}が人^この子^ちの地^あに在^あ

りて罪^{つみ}を赦^{ゆる}す權^{けん}あること^しを知ら^{ため}ん爲^こ、(是^こに於^{おい}て癱^{ちゅうぶう}瘋^{もの}の者^いに謂^おう、)起^{なんぢ}きて、爾^{とこ}の牀^{とこ}を

取^とりて、爾^{なんぢ}の家^{いえ}に往^ゆけ、彼^{かれ}即^{すなわ}ち起^おきて、牀^{とこ}を取^とりて、其^{その}家^{いえ}に往^ゆけり。民^{たみ}之^{これ}を見^みて奇^きと爲^な

し、是^かくの如^{ごと}き權^{けん}を人^{ひと}に賜^{たま}いし神^{かみ}を讚^{さん}榮^{えい}せり。

(比較用 口語訳) その時、イエスは舟に乗って海を渡り、自分の町に帰られた。すると、人々が中風の者を床の上に寝かせたままでみもとに運んできた。イエスは彼らの信仰を見て、中風の者に、「子よ、しっかりしなさい。あなたの罪はゆるされたのだ」と言われた。すると、ある律法学者たちが心の中で言った、「この人は神を汚している」。イエスは彼らの考えを見抜いて、「なぜ、あなたがたは心の中で悪いことを考えているのか。あなたの罪はゆるされた、と言うのと、起きて歩け、と言うのと、どちらがたやすいか。しかし、人の子は地上で罪をゆるす権威をもっていることが、あなたがたにわかるた

めに」と言い、中風の者にむかって、「起きよ、床を取りあげて家に帰れ」と言われた。すると彼は起きあがり、家に帰って行った。群衆はそれを見て恐れ、こんな大きな権威を人にお与えになった神をあがめた。

しゅよ、こうえいはなんちにきし、こうえい
主 光 榮 爾 歸 し 光 榮

はなんちにきす。
爾 歸

※代式祈祷③ へ